

令和3年度

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科 (修士課程)

学生募集要項

◇障がい有等者等の入学志願者の事前相談の申し出期限

令和2年9月2日(水) 午後5時まで

◇出願期間

令和2年9月18日(金)～9月25日(金)

※9月25日郵送発信局消印有効

◇試験日程

令和2年10月24日(土)～10月25日(日)

※集合時間・試験会場等の詳細情報については、試験日前日(10月23日)の午後4時に首里当蔵キャンパス管理棟前及びホームページに掲示するので必ず確認すること

◇合格発表

令和2年10月27日(火) 午前10時

※学内掲示・ホームページ掲載

◇入学手続

令和2年10月28日(水)～11月6日(金)

※窓口受付時間：午前9時～午後5時(土・日、祝日を除く)

郵送の場合は11月6日(金)午後5時までに必着のこと

◇入試に関するお知らせ(予告)

(1)舞台芸術専攻及び演奏芸術専攻では令和4年度入試より出願書類に研究計画書を提出することとする。

(2)舞台芸術専攻及び演奏芸術専攻では令和4年度入試より試験科目に面接を課す。

◇新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、入試科目の見直し、試験方法及び日程を変更する場合があります。その場合は大学ホームページで告知します。

令和2年6月

沖縄県立芸術大学

〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4

電話 098-882-5080

<http://www.okigei.ac.jp>

目 次

I	募集人員	1
II	出願資格	1
III	選抜方法	2
IV	試験日程	2
V	試験科目、配点と試験曲等	3
VI	受験上の注意	8
VII	出願手続き	8
VIII	合格発表	9
IX	入学手続き	10
X	試験問題の公表	10
XI	入試情報の開示について	10
XII	外国人志願者に対する特別措置	11
■	大学院案内	12
■	大学院研究室一覧	18
◆	入学願書等提出書類	巻末綴り込み

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科 (修士課程)

I 募集人員

専攻	専修	募集人員
舞台芸術専攻	琉球古典音楽専修 琉球舞踊組踊専修	4
演奏芸術専攻	声楽専修 ピアノ専修 管弦打楽専修	8
音楽学専攻	音楽学専修 作曲専修	3

II 出願資格

- (1) 大学を卒業した者及び令和3年3月に卒業見込みの者
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第155条第1項第4号の規定により文部科学大臣が指定したものの当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の学校教育法施行規則第155条第1項第5号の規定により文部科学大臣が定めた基準を満たすものに限る。）で学校教育法施行規則第155条第1項第5号の規定により文部科学大臣が指定したものを同号の規定により文部科学大臣が定めた日以後に修了した者
- (7) 学校教育法施行規則第155条第1項第6号の規定により文部科学大臣の指定した者
- (8) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、大学院において所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (9) 個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者で、22歳に達した者

※障がいのある者等は、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがあるので、出願の前あらかじめ（令和2年9月2日までに）教務学生課に申し出ること。

※上記(9)の適用を受けようとする者は、所定の出願書類（考査料を除く）の他、これまでの学習研究内容の詳細を説明する資料を添えて（令和2年8月28日までに）教務学生課に申し出ること。

Ⅲ 選抜方法

入学者の選抜にあたっては専門試験、語学、基礎能力等の選抜試験及び成績証明書、履歴書等の各資料を総合して判定する。

Ⅳ 試験日程

専攻／専修		10月24日(土)			10月25日(日)	
舞台芸術専攻	琉球古典音楽専修		実技試験 13:00～		基礎能力	語学
	琉球舞踊組踊専修	実技試験 9:30～			10:00～ 11:00	11:20～ 12:20
演奏芸術専攻	声楽専修			実技試験 15:30～	基礎能力1 9:00～ 10:00	語学 11:30～ 12:30
	ピアノ専修	実技試験 9:30～			基礎能力2 10:15～ 11:15	
	管弦打楽専修		実技試験 13:00～			
音楽学専攻	音楽学専修	基礎能力 10:00～ 11:30	口述試験 13:00～			語学 11:30～ 12:30
	作曲専修	口述試験 10:30～			基礎能力 10:15～ 11:15	語学 11:30～ 12:30

上記の試験時間は予定であり、志願者数によっては変更することもある。詳細については、**10月23日(金)午後4時**に本学管理棟前及びホームページに掲示するので、必ず受験者自身で確認すること。演奏順は本学事務局があらかじめ抽選し掲示する。なお、ピアノ専修実技試験において演奏箇所を指定する場合は同じく掲示するので確認をすること。

【試験場および集合時間と集合場所】

- ◆試験場：沖縄県立芸術大学（那覇市首里当蔵町1-4）**音楽棟および奏楽堂**
- ◆集合時間：専門試験（実技試験・作曲専修の口述試験）は試験開始**1時間前**
その他の試験は試験開始**30分前**
- ◆集合場所：本学音楽棟学生ホール
但し、**演奏芸術専攻の専門試験（実技）は奏楽堂ホワイエ**

V 試験科目、配点と試験曲等

V-1 試験科目

専攻／専修		専門試験	基礎能力	語学
舞台芸術専攻	琉球古典音楽専修	実技試験	琉球芸能史	琉球古典語 (辞書持込不可)
	琉球舞踊組踊専修			
演奏芸術専攻	声楽専修		1 和声 2 西洋音楽史	英語 独語 仏語 伊語 上記4ヶ国語から 1科目選択 (辞書持込可) *1
	ピアノ専修			
	管弦打楽専修			
音楽学専攻	音楽学専修		口述試験	音楽・芸能の 歴史と理論 *2
	作曲専修	口述試験	西洋音楽史	英語 独語 仏語 伊語 上記4ヶ国語から 1科目選択 (辞書持込可) *1

*1 但し、電子辞書は不可。

*2 西洋音楽・日本音楽・民族音楽・民族芸能の4領域から選択して解答する。

V-2 配点と試験曲

専 修	総点	配 点 比		
		専門試験	基礎能力	語学
琉球古典音楽	100	80	20	
琉球舞踊組踊	100			
声楽	100			
ピアノ	100			
管弦打楽	100			
音楽学	100	60	20	20
作曲	100	80	20	

舞台芸術専攻

琉球古典音楽専修

試 験 曲 等

歌三線、琉球箏曲のいずれかを選択し、それぞれ指定された科目を受験する。

【歌三線】

1. 昔節「作田節」「ちゃんな節」「しょどん節」より当日1曲を指定
2. 二揚独唱曲「散山節」「仲風節」「述懐節」より当日1曲を指定
3. 地謡「総掛」「花風」より1つを選択

*試験曲は、暗譜で独唱すること。

*3は立方を伴う。立方は受験生が同伴し稽古着を着用。小道具は持参すること。

*時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。

【琉球箏曲】

1. 「江戸菅攪・拍子菅攪・佐武也菅攪(三段～五段)」「六段菅攪」「七段菅攪」より当日1曲を指定
2. 昔節「ちゃんな節」「首里節」より当日1曲指定
3. 地謡「総掛」「花風」より1つを選択

*試験曲は、暗譜で独唱すること。

*3は立方を伴う。立方は受験生が同伴し稽古着を着用。小道具は持参すること。

*時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。

琉球舞踊組踊専修

試 験 曲 等

琉球舞踊、組踊のいずれかを選択し、それぞれ指定された科目を受験する。

【琉球舞踊】

1. 女踊「伊野波節」「諸屯」「作田」より当日1演目を指定
2. 二才踊「ぜい」「前の浜」「高平良万才」より1演目を選択
3. 雑踊「むんじゅる」「花風」より1演目を選択

*地謡は受験生が同伴すること(三線2名、太鼓1名)。

稽古着(長着)を着用。小道具は持参すること。

*時間の都合により演技の一部省略または中断を求めることがある。

【組踊】

1. 組踊「執心鐘入」「二童敵討」「女物狂」(各役の唱え)より当日1演目を指定
2. 女踊「伊野波節」「諸屯」より1演目を選択
3. 二才踊「前の浜」「高平良万才」より1演目を選択

*地謡は受験生が同伴すること(三線2名、太鼓1名)。

稽古着(長着)を着用。小道具は持参すること。

*1の組踊台本は大学側で準備する。

*時間の都合により演技の一部省略または中断を求めることがある。

演奏芸術専攻

声楽専修

試 験 曲 等

- A. W. A. Mozart、J. Haydnの声楽曲 1曲（オペラ、宗教曲、歌曲のいずれかより1曲）
- B. アリア 2曲（ただし、うち1曲は宗教曲のアリアも可）
- C. 歌曲 1曲

- * 曲目はそれぞれ異なる曲を計4曲とし、自由選択とする。
- * A・B・C 4曲の合計時間は10～15分とする（曲間を含む）。
- * 同一作曲家の作品は1曲のみとする。
- * 伊・独・仏・英の中から、2カ国語を含むこと。
- * 歌唱は暗譜で行うこととし、伴奏者は受験生が同伴すること。ただし遠隔地（沖縄本島以外）の受験者に限り、大学が用意することも可能である。P.8「VI 受験上の注意」を参照のこと。
- * 実技試験の演奏順は、受験曲目提出用紙に記入した順とする。
- * 前奏、間奏、後奏は省略することも可。ただし、カット箇所を記入の上、受験曲目の楽譜を出願時に提出すること。
- * 時間の都合により、演奏の一部、または演奏曲の省略、中断を求めることがある。

ピアノ専修

試 験 曲 等

- A. J. Haydn、W. A. Mozart、L. v. Beethovenのソナタより1曲（全楽章）
- B. 上記で選択した作曲家以外の、任意のピアノ独奏用作品（複数曲でも可）

- * A、B両方の演奏合計時間が30分以上。
- * Bの作品は、出版されている作品に限る。内部奏法を指示した作品は除く。
- * A、Bの順に演奏すること。
- * 演奏は暗譜であること。
- * 繰り返しは自由とする。
- * 時間の都合により、演奏の一部省略、または中断を求めることがある。
- * 演奏曲目及び演奏箇所を、前日掲示にて指定する場合がある。

以下より任意の1曲を選択し、全楽章を演奏すること。
カデンツァがある曲については任意のカデンツァを含む。
ピアノによる伴奏つき。暗譜で演奏すること。
伴奏者については受験生が同伴すること。

*時間の都合により試験当日、前奏、間奏、後奏及びソロパートの一部を省略または中断を求めることがある。

<ヴァイオリン>

1. F. Mendelssohn : ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
2. P. I. Tchaikovsky : ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35
3. 上記1. 2. の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<ヴィオラ>

1. F. A. Hoffmeister : ヴィオラ協奏曲 ニ長調
2. C. P. Stamitz : ヴィオラ協奏曲 第1番 ニ長調
3. 上記1. 2. の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<チェロ>

1. A. Dvořák : チェロ協奏曲 ロ短調 作品104
2. E. Lalo : チェロ協奏曲 ニ短調
3. 上記1. 2. の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<コントラバス>

1. D. Dragonetti : コントラバス協奏曲 イ長調
2. S. Koussevitzky : コントラバス協奏曲 嬰へ短調 作品3
3. 上記1. 2. の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<フルート>

1. W. A. Mozart : フルード協奏曲 第2番 ニ長調 K. 314 (285d)
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<オーボエ>

1. W. A. Mozart : オーボエ協奏曲 ハ長調 K. 314 (285d)
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<クラリネット>

1. W. A. Mozart : クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<ファゴット>

1. W. A. Mozart : ファゴット協奏曲 変ロ長調 K. 191 (186e)
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<サクソフォーン>

1. J. Ibert : アルトサクソフォーン室内小協奏曲
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<ホルン>

1. R. Strauss : ホルン協奏曲第1番 変ホ長調 作品11
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<トランペット>

1. J. Haydn : トランペット協奏曲 変ホ長調
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<トロンボーン>

1. F. David : トロンボーン協奏曲 変ロ長調
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<バストロンボーン>

1. V. Nelhybel : バストロンボーン協奏曲
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<チューバ>

1. R. Vaughan Williams : チューバ協奏曲
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<打楽器>

1. A. Jolivet : 打楽器協奏曲
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<マリンバ>

1. A. Koppel : マリンバ協奏曲第1番
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

音楽学専攻

音楽学専修

口述試験

研究計画書に関する口述試験

* 研究計画書の提出

本学所定の様式（綴じ込み用紙）に記入すること。

氏名を書かずに、受験番号のみ書くこと。

試験日初日（10月24日集合時間）に、集合場所に持参して提出する。

口述試験の際に、自分用の控えを持参すること。

作曲専修

口述試験

提出作品、作曲理論の学習歴および研究計画に関する口述試験

* 作曲作品の提出

楽譜3点以内とし、出願時に提出すること。

（直接持参は受け付けない。）

なお、口述試験の際に、提出した楽譜の控えを持参すること。

VI 受験上の注意

- 1 試験に関する諸事項は、全て首里当蔵キャンパス管理棟前に掲示するので、常に注意すること。
- 2 実技試験における試験の順番は、係員の指示に従うこと。
- 3 **試験当日の集合時間・場所は厳守すること（2ページ参照）**。決められた集合時間に遅れた者の受験は原則として認めない。やむを得ない事情により遅刻した場合はただちに係員に申し出ること。
- 4 伴奏者等について
 - ①受験生が同伴する場合は、「受験曲目提出用紙」の伴奏者等氏名の記入欄に記入すること。
 - ②声楽専修を受験する者のうち、大学が用意することを希望した場合は、「受験曲目提出用紙」の「大学が用意することを希望」の欄に○印を記入し、出願書類と共に伴奏楽譜を提出すること。伴奏合わせ日程は10月23日を予定しているが、詳細については出願書類受理後の事務局からの連絡に従うこと。受験生からの時間帯の指定は出来ない。
- 5 試験当日の受験生（伴奏者等を含む）は指定された場所に集合し、以後はすべて係員の指示に従うこと。
- 6 実技試験前の練習室の使用については、当日、集合場所において指示する。
- 7 受験の際には常に受験票を携帯すること。万一、受験票を忘れたり紛失した場合は速やかに係員に申し出ること。
- 8 楽器の持参等について
 - ①実技試験で使用する楽器のうち、ピアノ、打楽器、マリンバ以外は各自持参すること。
 - ②コントラバスについて、楽器を持参できない場合は本学で用意することが可能である。楽器を持参するか否かを「受験曲目提出用紙」の記入欄に記入すること。
- 9 打楽器受験者は、A4の用紙に使用楽器及び楽器の配置を記入して（様式は自由）出願時に提出すること。
- 10 試験内容に関する問い合わせには応じない。

VII 出願手続き

- 1 出願期間 令和2年9月18日（金）から同9月25日（金）まで
 - * 出願はすべて**郵送（書留）**によるものとする。
 - * **発信局消印が上記の期間内のものを有効**とする。

2 出願書類等

書 類	様式・書式	記 入 要 領 等
①入学願書・ 受験票・写真票	本学所定の様式 (綴込用紙)	氏名は戸籍に記入されている文字を楷書で正しく記入すること。 (以下の書類も同様に) 受験票・写真票には上半身、無帽、正面、出願前3ヶ月以内に撮影した同一写真(縦4cm×横3cm)を貼り付けること。
②受験曲目提出用紙	本学所定の様式 (綴込用紙)	詳細は提出用紙の注記を参照のこと。
③履歴書	本学所定の様式 (綴込用紙)	音楽歴と業績欄には師事した教師、出演した演奏会、受賞歴、 発表論文名、作品名等を記す。
④入学考査料領収書 ・領収書原符	本学所定の様式 (綴込用紙)	入学考査料(30,000円)の納入方法は、 郵便局の発行する普通 為替証書(指定受取人欄、払渡局欄等一切記入しないこと) と する。 「領収書・領収書原符」の納入義務者欄に住所・氏名を記 入し、 普通為替証書と一緒に提出 すること。
⑤卒業証明書又は卒 業見込証明書 (大学又は最終学校)	様式随意	出身大学等が証明し、厳封したものを提出すること。 本学の卒業見込み者・卒業者は不要。

書 類	様式・書式	記 入 要 領 等
⑥成績証明書	様式随意	出身大学等が証明し、厳封したものを提出すること。 本学の卒業見込み者・卒業者は不要。
⑦受験票交付用封筒	本学所定の様式 (綴込封筒)	郵便番号・住所・氏名を明記し、速達料金による374円分の切手を貼ること。
⑧その他の書類 (住民票抄本)	様式随意	県内居住者は入学料の額が軽減されるので、 令和2年4月1日以前から県内に住所を有することを証明する本人か配偶者、又は一親等親族の住民票抄本を提出すること。
⑨研究計画書 (音楽学専修受験者のみ)	本学所定の様式 (綴込用紙)	詳細は提出用紙の注記を参照のこと。 *試験日初日に、集合場所に持参して提出すること。
⑩作曲作品 (作曲専修受験者のみ)	様式随意	提出は3点以内とし、製本をせずに、クリップ等でまとめておくこと。(提出された作品は返却しない。)
⑪受験曲楽譜 (声楽専修受験者のみ)	様式随意	受験曲目の楽譜提出。(カットのある場合はその箇所を明記する。) (提出された楽譜は返却しない。)

上記①～⑧までの書類(⑧は要提出者のみ)及び入学考査料30,000円(郵便局の発行する普通為替証書)を所定の封筒(綴込)を用い**速達書留の郵送**によって提出すること。なお、⑩及び⑪は出願期間内に同提出先に願書等出願書類と**別便で速達書留により郵送**すること。

*願書等の受理後はいかなる事情があっても書類の変更、考査料の払戻はしない。

3 入学願書等提出先 **沖縄県立芸術大学教務学生課**
〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4 TEL 098-882-5058

4 受験票交付 願書受付期間内に必要な出願書類を提出し、入学考査料を納入した者に受験票を郵送によって交付する。
*受験票が、10月15日(木)までに送達されていない時は、直ちに教務学生課に連絡のうえ、書留郵便受領証をもって申し出ること。

VIII 合格発表

令和2年10月27日(火) 午前10時予定 本学管理棟前掲示板及びホームページ

*合格者には発表と同時に文書で通知し、入学手続きについても指示する。

*電話での問い合わせには一切応じない。

*入学手続終了後、入学定員に欠員が生じた場合には、11月10日(火)以降に「追加合格者の決定」を行い本人に直接連絡(電話等)するので、11月10日(火)から11月13日(金)までの間、確実に連絡できるようにしておくこと。(連絡は大学側から行き、受験者からの問い合わせには応じない。)

*募集人数に達しない専攻があった場合は、欠員補充二次募集を行うことがある。

IX 入学手続き

期 間：令和2年10月28日（水）～11月6日（金） 午前9時～午後5時（土・日、祝日を除く）

場 所：本学教務学生課

納付金の納入：

入学料	県内居住者	282,000円、その他の者	512,000円
	納入期間	令和2年10月28日（水）から11月6日（金）まで	
授業料	前期分	267,900円（年額 535,800円）	
	納入期間	令和3年4月1日（木）から4月30日（金）まで	

※ 納入期限が、土・日曜日又は国民の祝日にあたる場合は、その翌日までに納入すること。また、授業料等の改正が行われた場合には、改正後の授業料が適用される予定である。

※ 長期履修学生制度の詳細については大学ホームページを確認すること。

県内居住者とは、各号のいずれかに該当する者をいう。（住民票による証明が必要です）

- (1) 入学の日（4月1日）の1年以前から引き続き県内に住所を有する者
- (2) 入学の日（4月1日）の1年以前から引き続き県内に住所を有する配偶者又は1親等の親族のある者

* 入学料及び授業料の減免について

原則として大学の学業成績の平均が2.0（良）以上の者で、かつ、次の各号の一に該当する者を対象に、全額免除又は2分の1減額の可否を審査し決定する。

- 1 天災その他不慮の災害により、学費の負担に堪えられなくなった者
- 2 生活保護法（昭和25年法律第144号）による保護を受けている者と同一世帯にある者
- 3 前項のほか、特別の事情により学費の納付が著しく困難な者

X 試験問題の公表

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科では、過去3年間の入学試験問題（語学・基礎能力）を公表している。希望者は請求希望の専攻・専修名、試験の年度を記載し、返信用封筒（A4サイズ、所定の額の切手を貼り、住所・氏名を明記すること）を同封の上、本学教務学生課あてに申し込むこと。

XI 入試情報の開示について

沖縄県個人情報保護条例に基づき、一般入試の結果については、口頭により受験者本人が自己の入試結果の開示を請求することができる。

- (1) 開示内容 当該年度の受験科目の総点及び専門試験の得点を所定の様式により開示する。
- (2) 開示請求できる期間
令和2年11月16日（月）から令和2年12月15日（火）まで（9時から17時まで）
但し、土・日、祝日等休業となる日は除く
- (3) 開示請求の受付を行う場所
本学教務学生課
- (4) 開示の方法
本人部分のみ閲覧
- (5) 開示請求に必要な書類
受験票のほか、運転免許証、旅券その他官公署の発行する証明書等の一つを持参すること。
- (6) 開示請求
受験者本人が、口頭で本学教務学生課に申し出ること。
- (7) その他

電話による問い合わせには応じない。また、県内離島あるいは県外在住者で来学が困難な者は、沖縄県個人情報保護条例に基づく手続きが必要となる。
手続き方法については、沖縄県のホームページを参照すること。

XII 外国人志願者に対する特別措置

外国人で入学を志願する者は、本要項に定める事項のほか、以下の定めによる。

◆出願資格

本学大学院の授業を理解でき、日本語による論文等を書く能力を有すること。

◆出願手続き

1 願書受付 令和2年(2020年)7月1日(水)から同年9月25日(金)まで

2 出願書類

本要項に定める書類(P.8、P.9に記載)のほか、以下の書類等を提出しなければならない。

(1) 日本語の能力を証明する書類(日本語教育機関または日本語教育のコースを有する教育機関の長または担当教員が作成したもの。様式は自由。)

(2) 学費・生活費の負担能力を証明する書類

(3) 旅券の写し、又は在留カード(もしくは外国人登録証明書)の表裏両面の写し

3 入学手続き

入学手続きの際に、住民票の写し(または住民票記載事項証明書)もしくは、在留カードの表裏両面の写し(または外国人登録証明書)を提出すること。

◆入試科目

本要項のP.3に記載。ただし語学にかえて、日本語能力を確認するための面接を行う。

外国人志願者に対する特別措置について、不明な点は教務学生課に問い合わせること。

TEL 098-882-5058 FAX 098-882-5033

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科外国人学生規程

第1条 沖縄県立芸術大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第35条による外国人学生のうち音楽芸術研究科(以下「研究科」という。)に属する者の取り扱いは、この規程の定めるところによる。

第2条 この規程で「外国人学生」とは、国、地方公共団体若しくは他の教育機関から委託された外国人又は本大学院において教育を受ける目的で入学し、本大学院に入学を許可された外国人をいう。

第3条 外国人学生は、研究科における教授及び研究に支障のない場合に限り選考のうえ入学を許可する。

2 研究室(音楽芸術研究科履修規程に定める研究室をいう。)

一室あたり外国人学生は、原則として一人以内とする。

第4条 外国人学生の総数は、若干名とする。

2 外国人学生の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えることができない。

3 外国人学生の入学の時期は、年度の始めとする。

4 外国人学生の入学志願資格は、次の2つの条件を満たした者とする。

(1) 学習に足る日本語の理解と表現能力を有する者

(2) 大学院学則第9条(入学資格)に定める者

5 外国人学生の入学選考は、実技又は学科及び面接の入学試験によるものとする。

6 外国人学生として入学を志願する者は、学生募集要項に定めるもののほか、次の書類を提出しなければならない。

(1) 日本語の能力を証明する書類

(2) 学費・生活費の負担能力を証明する書類

(3) 旅券の写し又は在留カード(旧外国人登録法に規定する外国人登録証明書を含む。)両面の写し

(4) その他本研究科が必要と認める書類

第5条 外国人学生が修士課程を修了したときは、学位を授与する。

第6条 外国人学生の授業料、入学考査料及び入学料の額は、沖縄県立芸術大学授業料等の徴収条例(昭和61年沖縄県条例第2号)に定める額とする。

第7条 この規程に定めるもののほか、大学院学則を準用し、外国人学生に問題が生じたときは大学院運営委員会において協議する。

附則

この規程は、平成27年3月20日から施行する。

■大学院案内■

建学の理念

- (1) 日本文化の中における沖縄の地域文化の特性と伝統は、極めて特徴的であり、文化伝統の源流を探り、文化生成の普遍性を究めるために不可欠の内容をもつものである。わけても沖縄固有の風土によって培われた個性的な芸術文化の継承と創造との問題は、日本文化としてはもちろんのこと、沖縄県にとっても重要な課題であるといわざるを得ない。そして、それらを担う人材の育成もまた長い未来への架橋として緊要なことである。
- (2) 沖縄県立芸術大学を建学する基本的な精神は、沖縄の文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあるが、そのためには、地域文化の個性を明らかにし、その中に占める美術・工芸、音楽・芸能等さまざまな伝統芸術の問題に積極的かつ具体的に取り組み、その特性を生かすことでなければならない。このことは、日本文化の内容をより豊かにするとともにひいては、国際的な芸術的文化活動にも寄与するものと信ずる。
- (3) 我が国の最南に位置する県立芸術大学は、東アジア、東南アジアを軸とした太平洋文化圏の中心として、それらの地域における多様な芸術文化の実態と、地域文化伝統の個性とのかかわりを明らかにし、その広がりを追究し、汎アジア的芸術文化に特色をおいたユニークな研究教育機関にしたい。

教育理念・目標

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科は、音楽芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴や、それらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性の見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立った芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化の多様な芸能の実態と、伝統的芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追求する音楽構造学及び民族音楽学等の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。

これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性をもち、創造力豊かで、将来の社会における音楽芸術分野の幅広い実践活動を担う演奏家や研究者、芸術教育の場における専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

■ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科では、教育の理念に沿った高度な専門教育において成果をあげ、修士演奏、修士作品又は修士論文の提出を経て、所定の修了単位を取得した学生に対し、修士（芸術）の学位を授与します。

その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

- 1 音楽芸術の各分野における高度な専門的能力と知識を有し、東西の美意識や理論を深く理解し、豊かな表現力を備えている。
- 2 音楽芸術の実践活動や専門的指導者、研究者に求められるコミュニケーション能力、論理的思考力、文章表現力などの汎用的能力を身につけている。
- 3 修了後も社会的責任を認識し、音楽芸術の専門家として自立して活躍するとともに、自ら学び続ける能力を身につけている。
- 4 1から3までの高度な能力や知識等を総合的に活用し、創造的な思考力をもって自らの課題を探求し、解決する能力を身につけている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科のカリキュラムは、学士課程で培った基礎的能力と音楽芸術の各分野における専門科目で培った基礎能力と知識の上に立って、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、2年間を通して高度な専門分野の実技や理論を段階的に履修することを基本に、授業科目を編成します。そして、専門関連分野の技術や学問を深く主体的に学べるように配慮し、音楽家や研究者などの専門家として音楽芸術の発展に寄与するための能力を高める教育を行います。

■アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

1 教育の理念

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科の建学の基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統的な音楽芸術の継承と発展にとどまらず、芸術文化に対する深い理解と感性をもちながら新たな音楽芸術創造の可能性を広げる、音楽芸能分野の専門家として活躍できる人材を育成していきます。

2 本研究科の求める人材

本研究科の教育の理念をよく理解し、学習に必要な基礎能力、表現技術、知識および表現力を備えるとともに、現代社会に向けて新しい芸術創造の営みを発信していくために自ら課題を見出し、研究する意欲に満ちた人を求めます。

3 入学者選抜の実施

2に掲げる能力や意欲を持つ志願者を受け入れるため、本研究科の入学試験ではアドミッションポリシーに基づき、専門試験、基礎能力試験、語学試験を実施しています。

■舞台芸術専攻

舞台芸術専攻には、琉球古典音楽、琉球箏曲の実技修得をめざす琉球古典音楽専修と、琉球舞踊、組踊の実技修得をめざす琉球舞踊組踊専修とがあり、高度な技芸を有する演奏者あるいは演技者、また、その指導者および古典芸能を基礎とした新たな芸能の創造者などの人材育成をめざします。

1 琉球古典音楽専修

琉球古典音楽専修では、入学者には主な古典曲、舞踊曲を独演できる技量が求められます。

カリキュラムは琉球古典音楽の大昔節等の習得を中心とし、組踊、舞踊地謡の高度な技芸を習得します。また、伝統音楽を理論的に把握することにより、より深い理解に基づいた将来の実演家または指導者としての資質を身につけます。さらに創作演習を通して新たな伝統音楽の創造者としての技法を習得します。

修了の要件は、修士演奏の合格と単位取得とします。修士演奏には大昔節の独唱、舞踊または組踊の地謡、創作などが課せられ、演奏の理解を深めるために副論文の提出も求められます。

2 琉球舞踊組踊専修

琉球舞踊組踊専修では、入学者には代表的な古典舞踊や雑踊、または組踊の基本的な役柄の演技と唱えをすでに習得していることが求められます。

カリキュラムは、琉球舞踊研究室では古典舞踊の代表的な女踊り、二才踊りなどの技量を高め、組踊研究室では主要な組踊の演目を通して役柄に応じた唱え、演技の習得を中心に組まれています。

また、舞踊論、楽劇論などの理論研究を通して古典芸能の理解を深め、さらに創作能力を身につけます。

修了の要件は、修士演奏の合格と単位修得とします。修士演奏は、琉球舞踊研究室では、古典女踊りや二才踊り、そして雑踊りまたは創作が課せられます。また組踊研究室では組踊一番や語り組踊、そして創作または復曲などが課せられます。その他に、いずれも演技の理解を深めるために副論文の提出も求められます。

舞台芸術専攻 琉球古典音楽専修

履修区分	授業科目名
必修科目	琉球古典音楽研究Ⅰ 琉球古典音楽研究Ⅱ 課題演習
選択必修科目	創作演習 琉球音楽論研究 琉球楽劇論研究 論文作成法
選択科目	舞台制作研究 能楽研究 日本音楽史研究 民俗芸能論研究 アートマネジメント演習 民族音楽学研究
自由科目	声楽実技演習 器楽実技演習 学部開設科目

舞台芸術専攻 琉球舞踊組踊専修

履修区分	授業科目名
必修科目	琉球舞踊組踊研究Ⅰ 琉球舞踊組踊研究Ⅱ 課題演習
選択必修科目	舞踊組踊創作演習 琉球舞踊論研究 琉球楽劇論研究 論文作成法
選択科目	舞台制作研究 能楽研究 民俗芸能論研究 アートマネジメント演習 民族舞踊学研究
自由科目	声楽実技演習 器楽実技演習 学部開設科目

■演奏芸術専攻

演奏芸術専攻は、学部で培った基礎の上に、声楽・器楽の専門分野の高度な技術を修得し、演奏芸術を多方面から総合的に研究することで、広く国際的に活躍しうる音楽家や、社会に貢献できる人材育成を目指しています。演奏芸術専攻は、声楽、ピアノ、管弦打楽の3つの専修から成っています。

1 声楽専修

声楽専修は学部で声楽の基礎を学んだ者が、さらに声楽技術を磨き、舞台上で表現することをめざして研鑽するところであり、声楽を研究するために必要な総合能力と、目的意識、強い意欲が求められます。

学生はカリキュラムを通し、学部で培った教養と専門基礎の上に、幅広い学識を深め、自分の声と表現の特質を把握し、レパートリーの確立を目指します。

将来、コンサート歌手としてリサイタルを開催するのに必要な演奏技術と表現を学び、またオペラ歌手としては、一つの役を通し歌い演ずる技術と表現能力に舞台制作に関する実践を加えた、オペラの総合的な力を身につけます。

その成果は一般公開される演奏会で問われます。特に必修科目に設定されている協奏曲研究では、大学のオーケストラとの共演実践を行い、レパートリーを広げると同時に各々の研究を深める機会としています。

修了の要件は、修士演奏の合格と単位取得とします。修士演奏は40分以上のリサイタル形式でおこなわれ、声楽家としての歌唱能力や表現力が審査され、併せて各自の研究テーマに即した副論文の提出も求められます。

演奏芸術専攻（声楽専修）

履修区分	授業科目名
必修科目	声楽研究Ⅰ 声楽研究Ⅱ 協奏曲研究 オペラ総合実習A-I オペラ総合実習A-II 課題演習
選択必修科目	西洋音楽史研究 楽曲分析研究 論文作成法
選択科目	声楽特殊研究A 声楽特殊研究B アートマネジメント演習 舞台制作研究 コンピュータ音楽応用研究 楽曲構造特殊研究 音楽様式論 音楽学特殊研究A 音楽学特殊研究B
自由科目	学部開設科目

2 ピアノ専修

ピアノ専修は、学部で培った演奏技術を基に演奏実践を重ね、さらなる専門実技の総合的技量を高めるために根気強く研鑽を積んで行こうとする人材を求めています。又、音楽を通して忍耐力のある人間を育成することも目標としています。

入学試験では、古典派ピアノ作品の基本的な演奏技術を見るために、ハイドン、モーツァルト又はベートーヴェンのピアノ・ソナタを、また幅広いレパートリーの拡充を目指すために任意の作品を選択し、合計30分以上になる演奏を課しています。

二年間のカリキュラムは専門実技の個人指導を中心に、協奏曲、室内楽、声楽伴奏などの実技系と、楽曲分析、西洋音楽史、音楽様式論等の理論系科目からなっています。ピアノ研究Ⅰ、協奏曲研究、室内楽実習は、全て一般公開される演奏会形式による試験で成果が問われます。特に必修科目に設定されている協奏曲研究では、大学のオーケストラとの共演実践を行い、レパートリーを広げると同時に各々の研究を深める機会としています。

修了の要件は、修士演奏の合格と単位取得とします。修士演奏は60～80分のソロリサイタルとし、各自のテーマに基づき論理的にも追求した完成度の高い演奏を求めます。併せて修士演奏にした内容の副論文も課しています。

演奏芸術専攻（ピアノ専修）

履修区分	授業科目名
必修科目	ピアノ研究Ⅰ ピアノ研究Ⅱ 協奏曲研究 課題演習
選択必修科目	西洋音楽史研究 楽曲分析研究 論文作成法
選択科目	ピアノ特殊研究 声楽曲伴奏法 室内楽実習Ⅰ アートマネジメント演習 コンピュータ音楽応用研究 楽曲構造特殊研究 音楽様式論 音楽学特殊研究A 音楽学特殊研究B
自由科目	学部開設科目

3 管弦打楽専修

管弦打楽専修は、学部で専門実技の基礎を学び、さらに高技術の研鑽を重ね総合的な芸術性を追求する強い意識を持った人材を求めています。

カリキュラムは専門実技の個人指導を中心に管弦打楽研究、オーケストラ研究、協奏曲研究、室内楽実習等、器楽奏者として不可欠な分野の実技科目が配置され、さらに西洋音楽史研究、楽曲分析研究、音楽様式論などの理論系科目が配置されています。協奏曲研究ではコンチェルトが必修となり、ソリストとして大学のオーケストラと協演する公開演奏試験を行っています。

修了の要件は、修士演奏の合格と単位取得とします。修士演奏は45分程度のリサイタルで、幅広い表現力を持つ音楽性、完成度の高い優れた技術力を兼ね備えた演奏能力が審査されます。また、演奏家の視点から各自の研究テーマを考察した副論文の提出も求められています。

演奏芸術専攻（管弦打楽専修）

履修区分	授業科目名
必修科目	管弦打楽研究Ⅰ 管弦打楽研究Ⅱ オーケストラ研究Ⅰ オーケストラ研究Ⅱ 協奏曲研究 課題演習
選択必修科目	西洋音楽史研究 楽曲分析研究 論文作成法
選択科目	管弦打楽特殊研究 室内楽実習Ⅰ 室内楽実習Ⅱ コンピューター音楽応用研究 アートマネジメント演習 楽曲構造特殊研究 音楽様式論 音楽学特殊研究A 音楽学特殊研究B
自由科目	学部開設科目

■ 音楽学専攻

音楽学専攻には、学部における音楽、舞踊芸能の理論的研究および作曲研究を展開させてさらに高度な能力の獲得をめざすために音楽学専修、作曲専修が置かれ、研究者、作曲家または音楽、舞踊芸能分野において社会に資する人材の養成を目的とします。

1 音楽学専修

音楽学専修には、音楽史、民族音楽学、舞踊芸能論の3つの研究室があります。音楽史の研究室は、西洋、日本の音楽を対象に、歴史的、美学的、理論的研究をめざします。民族音楽学の研究室は、様々な文化における音楽の内部に存する論理（テキスト）とその背景となる歴史的、社会的環境（コンテキスト）の解明をめざします。舞踊芸能論の研究室では、舞踊芸能の歴史的、文化的、社会的な研究をめざします。

入学時には、当該研究領域のみならず、隣接領域の基本的知識を備えていることが必要となります。

カリキュラムは、各分野の講義を通して専門的知識と自己の研究方法の獲得をめざします。さらに必修に原典講読を加え、隣接分野についての基礎的学習も重視します。また、民族音楽学と舞踊芸能論の研究室は、沖縄をはじめとす

音楽学専攻（音楽学専修）

履修区分	授業科目名
必修科目	演習Ⅰ 演習Ⅱ 原典講読
選択必修科目	民族音楽学研究 琉球音楽論研究 民族舞踊学研究 民俗芸能論研究 西洋音楽史研究 日本音楽史研究
選択科目	課題研究 音楽様式論 音楽学特殊研究A 音楽学特殊研究B 琉球楽劇論研究 琉球舞踊論研究 能楽研究 アートマネジメント演習 楽曲分析研究 コンピューター音楽応用研究 楽曲構造特殊研究 他研究科開設科目
自由科目	学部開設科目 声楽実技演習 器楽実技演習

るアジア地域を対象とした研究を特色としています。

修了の要件は、単位取得と修士論文の合格です。修士論文の作成を通じて新たな知見と研究方法を確立することを目的としています。

2 作曲専修

作曲専修では、学部で培った音楽の基礎と作曲技術を基盤としてさらに作曲作品における習熟をはかり、その後の創作への確固とした方向付けを求めて一層の研鑽をめざします。したがって単に先人の手法を学ぶばかりでなく、創作的な意欲、より広い視野にたった自主的な研究姿勢が求められます。

カリキュラムでは、いわゆる現代音楽の幕開けまでの時代の西洋音楽の潮流を再検討しつつ、その後、現在にいたるまでの多様化、細分化された様々な作曲作品の表現を、楽曲分析、研究を通して講義、演習の形で学びます。それらに立脚したより広い視点から、独自の方向を個々の学生が見出せるよう、2年間の修業年月の中で任意の編成による修士作品を制作し、それを確認すべく実音にする試演の機会が与えられます。

修了の要件は、修士作品の合格と単位取得とします。修士作品は、独創性と表現の明確な意図と完成度が審査されます。また、芸術家の視点から各自の研究テーマを考察した副論文の提出が求められます。

音楽学専攻（作曲専修）

履修区分	授業科目名
必修科目	作曲実習Ⅰ 作曲実習Ⅱ 作曲演習Ⅰ 作曲演習Ⅱ 課題演習
選択必修科目	西洋音楽史研究 楽曲分析研究 論文作成法
選択科目	専門関連実技演習 コンピューター音楽応用研究 楽曲構造特殊研究 音楽様式論 音楽学特殊研究A 音楽学特殊研究B
自由科目	学部開設科目

■専修免許状

教育職員免許法に定められた所定の単位を修得すれば、中学校教諭専修免許状(音楽)と高等学校教諭専修免許状(音楽)を取得することができます。ただし当該教科等の1種免許状を取得済みであること。

■学芸員資格

博物館学課程所定の単位を修得すれば、学芸員の資格を取得することができます。

■大学院研究室一覧■

(令和2年6月現在)

舞台芸術専攻	琉球古典音楽専修	琉球古典音楽研究室	仲嶺 伸吾 (安富祖流) 島袋 功 (野村流) ※1 山内 昌也 (野村流) 宮里 秀明 (琉球箏曲)	教授* 教授 教授* 非常勤講師
	琉球舞踊組踊専修	組踊研究室	高嶺 久枝 ※2 阿嘉 修 眞境名 正憲	教授* (兼) 准教授 客員教授
		琉球舞踊研究室	高嶺 久枝 ※2 比嘉 いずみ	教授* 准教授
演奏芸術専攻	声楽専修	声楽研究室	片桐 仁美 五郎部 俊朗 山内 昌也 松田 奈緒美	教授* 教授* 准教授 准教授
	ピアノ専修	ピアノ研究室	小杉 裕一 小沢 麻由子	教授* 准教授*
	管弦打楽専修	弦楽研究室	岡田 光樹 (ヴァイオリン) 林 裕 (チェロ) 市坪 俊彦 (ヴィオラ) 吉田 秀 (コントラバス)	教授* 教授* 非常勤講師 非常勤講師
		管打楽研究室	阿部 雅人 (ホルン) 澤村 康恵 (クラリネット) 倉橋 健 (トランペット) 屋比久 理夏 (打楽器) 荒川 洋 (フルート) 庄司 知史 (オーボエ) 大澤 昌生 (ファゴット) 大城 正司 (サクソフォン) 吉川 武典 (トロンボーン) 池田 幸広 (チューバ)	教授* 准教授* 准教授 准教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師
音楽学専攻	音楽学専修	音楽史研究室	高瀬 澄子 (日本音楽史) 倉橋 玲子 (西洋音楽史) 向井 大策 (西洋音楽史)	教授* 准教授 准教授
		民族音楽学研究室	小西 潤子 (民族音楽学) 遠藤 美奈 (民族音楽学)	教授* 准教授
		舞踊芸能論研究室	久万田 晋 (民俗芸能論) 呉屋 淳子 (民族舞踊学)	教授* 准教授
	作曲専修	作曲研究室	近藤 春恵 ※1 土井 智恵子	教授* 准教授

*は指導教員

※1の教授は令和3年3月31日で退職の予定

※2の教授は令和4年3月31日で退職の予定

那覇市と沖縄県立芸術大学の位置図・配置図

沖縄県立芸術大学周辺略図



モノレール駅名称

- ①那覇空港駅
- ②赤嶺駅
- ③小祿駅
- ④奥武山公園駅
- ⑤壺川駅
- ⑥旭橋駅
- ⑦県庁前駅
- ⑧美栄橋駅
- ⑨牧志駅
- ⑩安里駅
- ⑪おもろまち駅
- ⑫古鳥駅
- ⑬市立病院前駅
- ⑭備保駅
- ⑮首里駅

